

★マリガヤハウス便り★      ★河野 尚子★

皆様、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか。フィリピンは乾期に入りましたが、台風が近づいたり雨の日もあつたり、いつもの乾期とはちょっと違ったりもします。学校に通っている子ども達は待ちに待った夏休みに入り、6月中旬までの自由時間をどのように満喫しようか思案中かもしれません。

【アイセックインターン紹介】

今年もアイセック委員会から学生インターンがマリガヤハウスの活動に参加してくれています。

「こんにちは！ 神戸大学1年生の加藤みづきです。2月20日から4月6日の6週間、マリガヤハウスでインターンにきています。

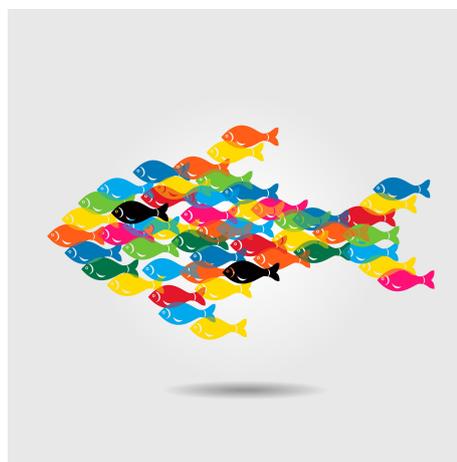


発展途上国であるフィリピンにきたいと前から思っていたこと、日本にも関係のあるJFC問題に興味をもったこと、また将来やりたいことを見つけるために模索する今、いろんなことに挑戦して視野を増やしたいと思い、今回インターンにきました。もうすでに5週間が経とうとしていますが、JFCの家庭訪問をしたり日本語講座をしたりする中でJFCの強く頑張る姿や同じ女性としての抱える問題を身近で知ることができ大変有意義な毎日です。翻訳の仕事も地味ですがこのひとつひとつがJFCの権利獲得のためになっていると思うとやりがいを感じます。あと1週間、自分にできることを全力でやっていきます！」

【フィリピン人ソーシャルワーカー クリスティン・マガリアノさん病氣治療支援のお願い】

2010年からフィリピン人ソーシャルワーカーとしてマリガヤハウスで働いてくれているクリスティン・マガリアノさんが昨年ごろから体調不良を訴えていたため、病院で検査をしてもらいました。すると甲状腺に2つの腫瘍(ともに良性)が見つかりました。医師からは腫瘍は成長をしていき、大きくなると声帯がつぶれて声が出なくなる可能性もあると言われ、即手術を勧められました。しかし、甲状腺はホルモン分泌に非常に重要な役割を持っているため、将来子どもを授かることができなくなる可能性が少なからずあると説明を受けたため、手術での腫瘍摘出は断念しました。その後、肩から腕にかけて痺れや震えが続き、声も変わってくるなど腫瘍の影響が顕著になってきました。そこで同じ病気を経験したマリガヤハウスのクライアント達や病院関係者から勧められたのが放射線治療でした。しかし、放射線治療は治療開始から終了まで約50,000ペソかかります。ミンダナオにある小さな島出身の彼女や彼女の家族が支払うには厳しい金額です。そこで団体やマリガヤハウスJFC母子達で話し合い、彼女の治療費をジャパングビング(Japan giving)ファンディングで集めることを決めました。

マリガヤハウス母子達のチャレンジ内容は、「魚が導く支援の手」です。マリガヤハウスの母子達が父親達から認知や養育費を受けるまでに、クリスティンさんからたくさんのサポートを受けてきました。裁判を起こすために作成される陳述書もクリスティンさんが作成し、裁判所や役所に提出される書類も彼女がフォローアップをして確実に揃えていきます。彼女のサポートなしでは母子達のケースをマネージするのは容易ではありません。このことは母子達も十



分に理解していて、今までの彼女の支援に感謝をし、大変な思いで放射線治療を頑張っている彼女へのモラルサポート、そして自分達も何かを頑張ってみようと言うことで出た案が、「今年の夏休み中に市場で早朝魚売りにチャレンジ」なのです。魚売りの場所を提供してくれるのは、マリガヤハウスクライアントであるイメルダ・サカタさんです。イメルダさんは毎日1人でブラカン州で夜遅くに魚を仕入れ、早朝4時から市場で魚売りをしています。彼女のように、日本人父親からの支援が無く、経済的に大変な中でJFCを育てている母親達は沢山います。このチャレンジのもう一つの目的は、JFCを育てるために苦勞をして働いている母親の姿を実際に見て、その大変さを理解し分かち合える機会となればと思っています。クリスティンさんからの皆様へのメッセージを紹介します。

「皆様、こんにちは。私はクリスティン・マガリアノです。マリガヤハウスでソーシャルワーカーとして2010年から働いています。今年でおよそ5年間ケースマネジメントを担当していますが、JFCが法的認知と日本人父親からの養育を受ける権利を主張し、日本国籍を獲得した時、この仕事に対して勝利感、満足感を感じています。

しかし2014年3月、私はのどに2つの腫瘍があると診断されました。そのときから病氣休職を常にとっていたため、この病氣は仕事にも影響し始めました。私は常に体調が悪く疲労感を感じたり、指や腕が痙攣し痛みを感じたりします。またほとんど毎日熱っぽいのです。これまでに3人の医者に相談しましたが、みなが甲状腺を取り除くよう勧めました。つまり手術です。私は手術によって起こりうる健康への副作用を知り、ただ腫瘍の大きさが変化するかを観察することにしました。

私は2015年2月に聖トマス大学付属病院で再度診察を受けました。腫瘍が大きくなり、症状がひどかったからです。私は毎朝と夕方は熱っぽいのです。そして朝起きたばかりなのに、よく体調が悪く疲労感があります。オフィスではめまいと疲労から仕事に専念できません。また耳鳴りや動悸、食べ物を飲み込むのが辛いことも時々あります。わたしは肌アレルギーがひどくなり、首の不快感やかがれ声になることにも気づきました。病院で医者は甲状腺腫瘍の主要原因はストレスであるといい、すぐに放射線治療をするよう勧めました。その治療をすれば甲状腺の腫瘍は手術をしなくても3カ月から1年でなくなるそうです。またもし私がこの治療を行わなかったら、腫瘍は増加し、甲状腺の機能が異常になるため、より健康への被害を及ぼすようになるそうです。

私はこの治療を受けたいのですが、NGO職員である私にとって治療費が高すぎるのです。私とオフィスが共同で支払っているフィリピンの社会保障システムは、この治療費をカバーしていません。

私は血液検査、甲状腺スキャン、診察費など治療費だけで少なくとも50,000ペソ必要です。また治療期間に禁じられていることが

たくさんあるため、3カ月間は仕事を休まなければなりません。3カ月間、医者で与えられた以外の薬は飲んではいけません。3カ月間、医者と与えられた以外の薬は飲んではいけません。また私は子どものころからアレルギーとぜんそくもちなので、予防措置をとり、ふだんよりより過度に注意しなければなりません。スキンケア製品の使用



やヨードの含まれる食べ物の摂取、コーヒー、茶、酒を飲むこと、ビタミンやサプリメントの摂取も禁止さ

## MALIGAYA 2015.3.

れています。

2015年4月15日に予定している治療費ための寄付を集めたいと思います。どんなに少ない金額の寄付であってもうれしい限りです。よろしくお願ひいたします。寛大な皆様に健康と繁栄、そして天の恵みがあることを祈っています。 クリスティン マガリアノ

3か月の休職となるクリスティンさんですが、3か月後には、元気に復職し、マリガヤハウスJFC母子達へのケースマネジメントに専念する予定です。どうか、彼女の今までの頑張りを称え、これからも元気にフィリピンのJFC母子達への支援に携われるよう応援していただければと思います。応援よろしくお願ひいたします！JFC達の魚プロジェクトについては、ジャパングビング、マリガヤハウスFacebook、JFCネットワークメールングリストなどでお知らせいたします。

### マリガヤハウスの主な活動

#### 2015年1月

- JFCネットワーク奨学生・ソロプチミスト奨学生・在日フィリピン大使館奨学生合同会議を開催。
- 新規クライアント受取前にオリエンテーションを開催。
- 新規クライアント登録会議を開催。

#### 2015年2月

- JFCネットワーク奨学生・ソロプチミスト奨学生・在日フィリピン大使館奨学生合同会議を開催。
- 認知後の国籍申請のため在比日本大使館を訪問。
- 新規クライアント受取前にオリエンテーションを開催。
- 新規クライアント登録会議を開催。
- フィリピン大学社会福祉と地域開発学部にてJFCネットワークの活動を紹介。
- ローカスから依頼されたDNA鑑定実施。
- 神戸大学からのアイセックインターンを受け入れ。

#### 2015年3月

- JFCネットワーク奨学生・ソロプチミスト奨学生・在日フィリピン大使館奨学生合同会議を開催。
- 認知後の国籍申請のため在比日本大使館を訪問。
- ローカスから依頼されたDNA鑑定実施。
- 新規クライアント受取前にオリエンテーションを開催。
- 新規クライアント登録会議を開催。



- ダバオ在住JFC母子のDNA鑑定のためCOW事務所（Center for Overseas Worker-Davao）へ出張。
- マリガヤハウスソーシャルワーカー クリスティン・マガリアノさんの甲状腺治療費のための寄付集めプロジェクト開始。
- アイセックインターンによるJFC母子達への日本カルチャー教室を実施。